

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/16/2018

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 8/1/2018 ~ 8/24/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 工学系研究科
- 学年(プログラム開始時): 修士 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

学期中は授業や研究があるので、夏季休業の時間を利用して短期留学したいと思いました。

■参加を決めるまでの経緯:

もともと日本で留学していて、東アジアの政治、経済、文化などの諸事情にとっても興味を持っています。日中韓は歴史や文化の絡みも深いので、その絡みから生まれた社会の課題と向き合いたいと思って、今回のプログラムに参加しました。

プログラムについて

■概要:

東京ラウンドとソウルラウンドも同じ午前中は日韓や東アジアの政治、経済、文化についての講義で、午後は政府機関、企業、文化スポットなどへのフィールドトリップがあります。両ラウンドの最後にグループでのプレゼンテーションがあってテーマは日韓や東アジアの社会課題に向けての提案です。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

文化活動

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

仁川漫画ミュージアムや中華街などの文化スポットを訪れました。

■週末の過ごし方:

週末はグループメンバーと東京とソウルの観光をしました。

派遣先大学の環境について

■設備:

ソウル大のキャンパスはとても広くて設備も万全です。図書館利用カードを作ってくれますので快適に利用できます。食堂も多くて、料理もいろんな種類あっておすすめです。教室や図書館では eduroam を使えますが寮にはないので、pocket WiFi や sim card を持って方がいいと思います。

■サポート体制:

先生や TA さんがいろんな面でサポートしてくれたのでプログラム中は元気よく過ごしました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮	
■宿泊先の様子、どのように見つけたか：	
オンキャンパスの学生寮です。2 人部屋ですがとても広かったです。寮の設備が完備でとても快適でした。	
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：	
ソウルの夏は東京と同じぐらいの暑さです。基本は半袖のシャツを着たがパンムンジョム訪問のために長袖の衣服も持って行きました。ソウル大学のキャンパスは冠岳山というところで中心部から少し離れていますが周辺にいくつかの街があって美味しい飲食店も多いです。また学食も安くておいしいです。	
■お金の管理方法、現地の通貨事情：	
韓国は無現金化がかなり進んでいてどこでもクレジットカードが使えます。また交通は T-money カードがあれば万全です。ただ外食の時割り勘が多いため10万ウオン程度の現金は持って方がいいと思います。	
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：	
ソウルは東京並みの治安が良い都市です。何かがあれば TA さんに連絡すれば対応してくれます。	
■自由時間に利用した交通手段：	
タクシー、列車、バス	
■プログラム期間中に利用したネット環境：	
キャンパス Wifi、SIM	

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：	
国際交流課の案内に従って期限までに渡航情報届とパスポート情報を提出しました。	
■ビザの手続き：	
僕は中国出身なので韓国入国ビザが必要です。麻布十番の韓国大使館領事部で観光ビザを取りました。所要時間は約一週間でした。	
■医療関係の準備：	
麻疹ワクチンの接種が必要です。僕は中国で接種したことがあるが記録が持っていないため東大の保健室で抗体検査を受けました。ただし所要時間が結構長く、僕の場合は 2 週間かかったけど、もし接種が必要な場合もつとかがかりますのでお早目の受診がおすすめです。お腹壊しやすいので下痢の薬を持って行きました。	
■保険関係の準備：	
付帯海学に加入しました。	
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：	
院生のため指導教員から留学の許可をもらいました。	
■語学関係の準備：	
基本的な韓国語を YouTube で勉強しました。	

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：	
航空費	28,500 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円

教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	25,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	20,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
東京大学海外派遣奨学事業奨学金	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
このプログラムを通して、僕は日韓社会各自及び相互間の問題に対する理解が一層深まりました。また、東アジアの平和や協力など重要な課題を自分で考えるようになりました。最も嬉しいのが、他の東大生とソウル大生とディープな交流と友情ができました。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
国際地域間の連携や協力を携わる場所でキャリアを展開したいと思います。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職、民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
ぜひこのチャンスを掴んで、今の自分から抜き出して、新たな自分と出会えよ!
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
Wikipedia(基本的な情報が意外に役立つ)、konest(韓国観光情報が満載!)

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/12/2018

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 8/1/2018 ~ 8/24/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 法学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 4

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

現在は就職活動が終わる 4 年の夏で、卒業して仕事が始まれば長期間海外に行く機会も限られてくるから。また、3 年次に 1 年間留学していたが、アカデミックなディスカッションなどで英語を使いこなすことにはまだ不安があったため、(ビジネスではなく)アカデミックな文脈で英語を使い、自信を身につけておきたかったから。

■参加を決めるまでの経緯:

学生最後の夏休みだったため、この夏に短期留学をしたいということは、昨年末くらいから思っていた。第 1 回サマープログラムの募集時には就職活動や期末試験のため余裕がなく申し込みは見送らざるを得なかったが、第 2 回の募集があると聞いていたため、その時点で参加することは決めていた。

プログラムについて

■概要:

授業や訪問先の講演は概ね全て英語。稀に日本語と韓国語を交互に用いる講演もある。予習はしなくてもついてはいけるが、英語が苦手な人やその分野の知識が特に不安な人は、配布される教科書を事前に読んでおくと助けになると思う。講義形式が多いが、ディスカッションの時間を設ける先生もいる。ソウル大学の学生は、もちろん個人差があるが、自国内の問題や日韓関係についてきちんと意見を持っている人も多い印象を受け、議論の場でも東大生に比べ積極性が見られたように思う。特に東大の駒場生は専門科目の勉強はこれからであるとはいえ、時事問題や国際政治に関心を払っておいた方が充実した時間になると感じる。各講義は質問の時間を長めにとっている。印象に残っているのは板門店へのフィールドトリップ。韓国を日本と似た社会と捉える見方も多い中で、決定的な違いは韓国が北朝鮮と(休戦中であるとはいえ)戦争をしている当事国であるという事実だと実感させられた。独特の緊張感があり、それまでに聞いていた講義などが手触り感のある問題意識として自分の中に入ってくるのを感じた。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

スポーツ

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

ソウル大学のキャンパス内のバスケットボールコートで、ソウル大学の学生や東大の学生計 5 人で朝の時間を使いバスケットボールをした。

■週末の過ごし方:

東京ラウンドでは一日は各々で過ごす自由な日とし、一日は夕方に集まって江戸川の花火大会を見に行

った。ソウルラウンドではグループの人と市内観光をした他、他グループのソウル大生・東大生と郊外のテーマパークに行った。

派遣先大学の環境について

■設備:

図書館は利用可能。食堂も、寮付近を含めキャンパス内に点在し、比較的安い価格で利用できる。大学のWiFiは寮では使えないため、自分のルーターなどを使用した方が良い。

■サポート体制:

語学面では日本語を話せるソウル大の教授・TAの方々がいたため、英語に困ってもコミュニケーションはとれた。韓国語を知っていれば街中でよりスムーズであったり、ソウル大学の学生との話のタネになったりするが、わからなくても問題はない。それ以外の面では、何か問題があれば東大・ソウル大双方の教授・TAの方々が非常に親身に助けてくださるので、すぐに相談した方が良い。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

特に手続きなく、部屋が割り当てられる(ソウルラウンド開始前日の指定の時間にチェックイン)。留学生用の寮で、2人1部屋のルームシェアだったが、清潔だった。各部屋に共用のトイレとシャワー(別)がある。キッチン各階に1つずつ共同使用のものがある。洗濯機・乾燥機は地上階にあり、無料で使える。冷房も完備されている。コンビニなども近い。留意事項として、WiFiが寮まで届いておらず、自分でルーターなどを用意した方がよい。キャンパス内の寮で、授業などが行われた建物へは歩いて行くことができた。ただし大学自体が東大の比ではなく街のように大きいので、最寄駅からのアクセス含め、キャンパス内ではバスを度々利用することになる。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

日本の気候と近く、日中は暑い。ただしある日を過ぎてからは湿気が薄れ、夜などは非常に過ごしやすい気候となった。大学キャンパスは非常に大きく、地下鉄の最寄駅が2つある。駅周辺は学生街という感じで飲食店やカラオケ、カフェなどが多い。寮はどちらの駅からも距離があるためバスに乗る必要がある(日本の半額ほど)。最悪、歩けない距離ではないが、バスは遅い時間まで走っている上、終バスが過ぎてもタクシーが日本の半分か程度の値段で利用できるため、安全を考えるとタクシーを利用しても良い。食事は美味しいが辛いものが非常に多い。刺激物を毎食摂取することになるので、辛いものが好きという人でも念のため胃腸薬は多めに持って行った方がいいかもしれない。コンビニの品揃えも良く、日本から食べ物を持って行く必要は感じなかった。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

クレジットカードが多くの場所で使えるため、持参した方がいい(念のため、できれば複数枚分けて管理することが好ましい)。ただし、集団で行動し割り勘をすることも多いので、現地通貨は絶対に必要になる。日本円はだいたい街中で両替可能なので、予備として持っていけば安心。私は海外ATMで使えるキャッシュカードを利用していた。現金で計2~3万円分くらい使ったように思う。交通にはT-moneyというSuicaのようなプリペイドカードが便利。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
胃が荒れたので、胃腸薬が重宝した。前半は暑い日が続いたので、水をよく飲むようにした。
■自由時間に利用した交通手段:
タクシー、列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
まず第 2 回サマープログラム自体の学内申請書を誓約書などと合わせ所属部局に提出。学内申請書に記入された志望動機や学業成績、英語のスコアなどを総合的に評価され、3 つまで書ける留学志望先の可否が通知され、留学先が決定される。その後、1、東大本部国際交流課に提出する書類と、2、所属部局に提出する書類を作成。1は留学保険加入のための書類や、パスポート情報、留学前後報告書、さらにソウル大学寮のための Health Form など。2は単位認定などの書類だが、本プログラムでは単位認定がなかったため、学部長への「留学許可申請書」以外の提出は不要だったと認識している。
■ビザの手続き:
ビザの手続きは特に必要なかったが、板門店に行くプログラムが組まれていたため、そのためにパスポート情報を提出する必要があった。
■医療関係の準備:
Health Form ははしか、結核など特定の病気の抗体があることを証明しなくてはならず、医師のサインがいる。抗体がある場合は、過去に 2 回以上予防接種を受けていることの証明もしくは血液検査が必要。抗体がない場合はワクチンの接種が必要。書類自体は所定の診断書に英語で記入してもらう必要がある。東大の保健センターでも記入可能とのことだったが、留年により当該年度の健康診断を受けていないなどの場合、書類の作成を受け付けてもらえないこともある。その場合は英語の診断書作成を請け負うクリニックなどでの受診が必要になり、保健適用外の高額な受診料がかかることもある。手続きの方法が伝えられてから、提出期限までの時間が極めて短いので、不測の事態も想定して早めの準備が望ましいと感じた。
■保険関係の準備:
付帯海学という留学保険に加入する。東大本部国際交流課に渡航情報届を提出すると、保険の関係書類が届くため、指定の期間内に保険料を振り込み、被保険者証を受け取る。手続きの方法が通知されてから期限までの時間が短いため、早めに手続きをした方が良い。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
学部長への「留学許可申請書」以外の提出は不要だったと認識している。
■語学関係の準備:
TOEIC870 点程度。会話の意欲があり、日常会話ができれば全く問題ないが、アカデミックな議論も多いため、語彙は多いに越したことはない。相手も母国語ではなく速い英語ではないとはいえ、授業がわからないと議論にも参加しにくいと、リスニングが苦手な人は継続的に英語に触れておくことが望ましいと思われる。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	34,220 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,290 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	30,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給しなかった。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
■受給金額(月額):	
円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
ソウル大学の学生の高い能力水準を知ることができたこと。日韓間に横たわる諸論点について横断的に眺め、韓国人学生と議論を交わすことで関心をより深め、今後勉強していくための土台を築けたこと。似ているけどどこか違う、日本と韓国の社会についての漠然とした認識を、ソウル大生や東大生同士での会話の中で言語化し、理解を深められたこと。英語を使ってディスカッションをするということを、英語能力以上に姿勢の面で実践し、自信と課題をどちらも見出せたこと。お互いがお互いの国を訪れた時に再び会いたいと連絡し合えるような友人ができたこと。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
もともと留学は自分の視野を広げるためとどこか割り切っており海外で働くことに特に関心がなかったが、同じアジアの学生とこうして同じプログラムに参加したことで、共に働くことや、ビジネス相手として関わるのが現実的かつチャレンジングでやりがいのあることだと思えるようになった。自分の進路はすでに決まっ

ているが、ゆくゆくは海外で活躍していける人材になりたいと感じた。
■進路・就職先(就職希望先):
民間企業、リクルート
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
英語圏や人気の留学先ばかりが正解であるかのように思ってしまうがちですし、自分もそこに行ってみたい気持ちが元々ありましたが、韓国をはじめ、どの国にもそこでしか学べない気づきや発見があるはずで、きっと後悔しないと思います。参加する以上は少しでもそこで多くのものを得られるよう、恥ずかしさを捨ててどんどん挑戦してみしてほしいと思います。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
コネストという日本語の韓国観光のサイト・アプリ(レストランの情報・マップ・乗り換え案内)は便利でした。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/31

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 2018/08/01 ~ 2018/08/24
- 東京大学での所属学部・研究科等: 経済学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 3

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
長期休暇中であるため、大学の授業を休む必要がないから。
■参加を決めるまでの経緯:
プログラムが発表された時点で参加を決めていた。少しでも東アジアに出て、現地の感覚を掴んでおきたい。

プログラムについて

■概要:
授業、フィールド・ワーク
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
学習と文化活動が一体となったプログラムであった。
■週末の過ごし方:
ソウル大の学生と外に遊びに行った。

派遣先大学の環境について

■設備:
図書館、スポーツ施設、食堂全て揃っていた。キャンパス内によっては Wi-fi が届かない場所もあり。
■サポート体制:
食費を負担してくれるなど、ソウル大からのかなりの厚遇を受けた。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮、友人宅に泊めてもらった
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
大学のキャンパス内にある学生寮に宿泊した。2 人部屋であり、東大の学生と 10 日間ほど生活を共にした。

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
気候は日本と変わらず湿度は低めなので、あまり暑いと感じなかった。大学周辺には学生街があり、活気があった。バスか地下鉄で移動した。外食、デリバリーが多かった。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
海外キャッシングでウォンを引き出し、生活した。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
特に何もしていない。
■ 自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、バス
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi、友人の Wi-fi ルーター

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
プログラム出願書類。GPA が基準に満たない場合は、追加の奨学金申請書類(もらえない場合もある) プログラム後報告書
■ ビザの手続き：
ビザは必要なかった。
■ 医療関係の準備：
強制されていた複数の抗体検査の内、おたふく風邪の分だけ採血した。この検査がしっかり行われない場合、ソウル大から受け入れ拒否されるので注意が必要。
■ 保険関係の準備：
余裕を持って料金を支払うこと。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
海外渡航の知らせだけ、学部教務課窓口で提出した
■ 語学関係の準備：
申し込み時点で IELTS5.5、渡航時点で IELTS6.5 を所持していた。韓国語については現地で少し覚えた。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：		
航空費	17,000	円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000	円
教科書代・書籍代	0	円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,810	円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0	円
■その他、補足等：		

■留学先で費やした生活費：	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	25,000 円
娯楽費	20,000 円
■その他、補足等：	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無：	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等：	
JASSO	
■受給金額(月額)：	
70,000 円	
■受給金額についての補足等：	
■奨学金をどのように見つけたか：	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
学年の垣根を越えて仲良くなれた。プログラムの性質上、1つの問題について複数の視点から考える癖がついた。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
海外で働きたいという気持ちがより一層強まった。
■進路・就職先(就職希望先)：
公的機関、民間企業、起業、商社、外務省、外資系
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
あまり考えず、まずは申し込もう！
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
特になし。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/15/2018

■参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>

■派遣先大学: ソウル大学校

■プログラム期間: 8/1/2018 ~ 8/24/2018

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

I thought first year would be the best year to experience the short term study abroad program offered in the university as I am planning to participate in long-term study abroad and internship program from second grade.

■参加を決めるまでの経緯:

I was looking for programs which can provide a glimpse of study abroad program. The short-term summer study abroad program was perfect in that not only can I gain a first-hand experience of studying abroad but also be able to closely interact with students with common interest.

プログラムについて

■概要:

Some of the most impressive lectures were the ones in which there were active discussions between the professor and the student. I enjoyed how students asked questions that are open for a great exchange in opinions in which students can expand their ideas and perspectives.

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

文化活動

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

We made an effort to experience the true life of Koreans as well as visit the tourist sites when we had time during the program. We visited the palaces at Gwanghwamun where SNU students explained in detail the history behind each building. As part of experiencing how Korean people spend their time at night or during the weekend, we visited the Han River, Gwangjang market, Coex mall and etc where we were able to try authentic or/and famous Korean dishes.

■週末の過ごし方:

We got together with SNU students to hang around in Seoul for the most of the time. I also reached out to some of my friends who live in Korea and met them to spend time together.

派遣先大学の環境について

■設備:

I did not have the chance to use the library nor any other sports facilities around campus but from what I've seen through the school tour, SNU has great facilities for students to enjoy their campus life to the fullest. If you have the time, do check out their new library where you can read books and study!

■サポート体制:

SNU was very supportive throughout the program especially through their TAs. The TAs were always there for you to reach out whenever you had any issues. They speak fluent English, Japanese and Korean so approach them and ask for help when you are in trouble.

プログラム期間中の生活について**■宿泊先の種類:**

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

When you get into the program, you are automatically guaranteed to stay in the SNU dorm.

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

SNU itself is located inside the mountain, making students to take a 15 minute bus ride to reach to the subway station. But once you get to the nearest subway station, you have access to many restaurants, cafes, shops, theaters, and etc. The school meal is very cheap and good but you can also find many good restaurants at the nearest subway station. We often delivered food to our place during lunch, gaining a first-hand experience of Korean delivery system.

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

I used my own credit card and IC card that I used to have while I lived in Korea. It is highly recommended that you get your own IC card when you arrive in Korea since it would make your trip much easier.

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

Korea is as safe as Japan so I did not have to pay any particular attention for safety. I did get a little sick during the program but was not able to use the medical service offered in SNU so students should be aware and always buy the insurance policy in case anything happens to them during their stay in Korea.

■自由時間に利用した交通手段:

タクシー、車、バス

■プログラム期間中に利用したネット環境:

SIM

参加前の準備・手続きについて**■プログラムへの参加手続き:**

All the information you need to apply and prepare for the program can be found in the document that the office sends. As long as you keep record of the documents you have submitted, you will not have to worry about meeting your deadlines.

■ビザの手続き:

N/A as I am Korean

■医療関係の準備:

The day after the meeting, I went to the school clinic center and made a reservation for check-up. I

recommend you to make your reservation at least one month prior to the deadline as you might have some remaining vaccination. Some vaccines require one-week interval between each shot so it is important that you have enough time before the deadline.

■保険関係の準備:

Follow the instructions written on the PDF uploaded by the school and there will be no issues in buying an insurance policy.

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:

Unless you are aiming for a scholarship, there are no requirements. But 70,000 scholarship is a huge amount that puts away your financial concerns so I recommend you put in your effort to receive good grades.

■語学関係の準備:

Fluency in English will greatly help you take away many things from this program. Probably study some Korean culture before you go to Seoul so that you can make the most out of your experience in terms of interaction with SNU students.

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:

航空費	40,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:

予防接種: 5,000

■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	35,000 円
交通費	8,000 円
娯楽費	5,000 円

■その他、補足等:

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等:

東京大学

■受給金額(月額):

70,000 円

■受給金額についての補足等:

■奨学金をどのように見つけたか:

大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:

I am very satisfied two two points: the content of the lecture and the memory. As a first-year PEAK student majoring in 'Japan in East Asia', I have not been able to take courses that directly relates to my major yet (other than the foundation courses). Thus, hearing lectures from professors about history, media, economics, sociology and etc about East Asia, it provided a glimpse of what I will be studying in the coming years and know whether I see myself into one of those majors. Moreover, I enjoyed very much spending time with new group of friends from both SNU and UTokyo. Forming a mixed group of students aided in exchange of different cultures and helped us to form friendships that we cherish very much.

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

The fieldwork during the program enabled me to ask questions to understand better about the institution that I am interested in. It was such a great opportunity and a honor to be able to visit places where it would be very difficult had it been individually booked.

■進路・就職先(就職希望先):

公的機関、Diplomat

■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:

Its all about the balance. You need to keep your own pace and maintain the balance between work and play, Japanese culture and Korean culture, your ideas and others' ideas, and etc. It is never too good to lean on one side but rather to be open and be free from any restrictions that you have imposed on yourself or have been set by the environment. Stay conscious of your thoughts and your actions throughout the program and experience how much you have changed from the beginning.

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:

Nothing in particular.

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/13/2018

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 8/1/2018 ~ 8/24/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

2 年次にサマープログラムの存在を知り、専門課程に進学して忙しくなる前に参加したいと思ったから。

■参加を決めるまでの経緯:

去年の夏休みを何もせずに終えてしまったのが心残りで、今年の夏休みはもっと有意義なものにしたいと考え、留学関連の情報を調べていたところ、このサマープログラムを見つけた。4月には参加を志望していたと思う。

プログラムについて

■概要:

特に予習が必要な授業はなかったが、レジュメが事前に冊子に掲載されているものに関しては、予め読み込んでおくと授業への理解が深まると思う。東京ラウンドとソウルラウンドでそれぞれ最後にグループプレゼンテーションがあるので、授業内に準備が終わらなかった場合は各班で時間を作ってやる必要があった。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

文化活動

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

文化交流

■週末の過ごし方:

班のみんなと民俗村に行ったあと、授業の内容に関連した映画を見た。
もう一日は、ソウル大の子が予定があったため、同じ班の東大生と一緒にショッピングなどをした。

派遣先大学の環境について

■設備:

食堂は至る所にある。また、普通のカフェやコンビニ、レストランも学内にたくさんあるので困らなかった。寮の近くにも勿論コンビニがあるので飲み物などはそこで購入できる。授業を受ける教室では学内 Wi-Fi が利用できるが、寮では繋がらないので注意が必要。

■サポート体制:

ソウルに滞在している間は、特に何かサポートがあったわけではなかったが、常に気をかけてくださっていた。特に、ソウル滞在中はソウル大の TA さんにお世話になった。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

2人1部屋だった。部屋は清潔だが、トイレトペーパーやドライヤーなどは何もないので、持っていくのを忘れないように。また、部屋では大学の Wi-Fi が通っていないので、注意が必要。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

夏なのでもちろん暑かったが、日本よりも湿度が低く若干涼しいように感じた。台風が直撃し、雨に降られた。夏の天気は読めないなので、折り畳み傘は必須。交通機関と食事は日本と比べるとかなり安い。t-money カードを持っていない人は向こうに着いたらすぐにコンビニで買うと良いと思う。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

韓国では現金はほとんど使われず、全てカード決済。カードしか使えないお店もあるほどだった。食事をした時の個別会計もカードですべてできるので、持っていない人は作っていくと便利かもしれない。また、両替は日本でするよりも現地でした方がレートがよい。LINEpay でも両替サービスがあるのでそれを利用するのもおすすめ。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

朝からの授業に備え、疲れていると感じたときは早めに寝るようにした。薬は色々な種類を持っていたが、結局何も服用しなかった。辛いものが多いのでお腹が弱い人は胃腸薬や下痢止めが必須だと思う。

■自由時間に利用した交通手段:

タクシー、列車、バス

■プログラム期間中に利用したネット環境:

キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:

提出物に関してはメールで国際交流課の方からその都度細かい指示を頂けるので特に困らなかった。こまめにメールチェックをするよう心がければ問題ないと思われる。

■ビザの手続き:

必要なかった。

■医療関係の準備:

前年度の先輩方の報告書にもあったように、health form の手続きが少し複雑なので、注意が必要。私の場合、学校の保健センターで健康診断を受けるのを忘れてしまったのでトラベルクリニックを利用できず、一般の病院で健診を受けたため余計な経費が掛かった。特に女子は健康診断の日程が限られているので必ず早めに確認して予約を取るとよいと思う。

■保険関係の準備:

学校指定のものと、前期教養学部生に必要な OSSUMA に加入した。どちらも複雑な手続きはないが、早めの申し込みが必要なので、学校から案内が来たらすぐに振り込みなどをするとよい。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き: 海外渡航届を出したのみで特に特別な手続きは行っていない。 ■語学関係の準備: 英語に関しては日常会話は問題なかったが、特に学問的分野の単語力が足りなかった。授業で扱われるような社会問題、政治、歴史に関する英単語などをあらかじめ予習しておけば良かったと思う。韓国語に関しては、ハングルを読めて、会話の内容もかなり理解できるレベルだったが、しっかり学習したことがなかったなので自分で話すことは出来なかった。ソウル大生は事前に日本語の授業を受けていて皆日本語が堪能なので、少しでも韓国語のフレーズなどを覚えていくと盛り上がるかもしれない。
--

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	40,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	6,500 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	3,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:

プログラム参加の当初の目的であった、自分が韓国旅行の中で疑問に思っていたことについて学び、現地の学生と意見を交流するという目的は達成できた。それに加え、ソウル大生と交流することで、語学やこれから進む専門課程への学習意欲も高まった。友達も多くでき、得るものの多いプログラムであったと思う。

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

プログラムに参加している東大生の中には、就職先が決まっている先輩などもいて、就職についての詳しい話を聞いて具体的なイメージがわくようになった。また、私が進学する予定の法学部の先輩方から話を聞くことで、今まで考えていなかった進路についても可能性を感じるようになった。

■進路・就職先(就職希望先):

公的機関、民間企業

■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:

どんな学生にとっても必ずためになるようなプログラムですし、向こうの大学の友達もできて本当に楽しいので、迷っている人はぜひ参加してみてください。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:

出発前に授業で扱う、歴史問題や日韓関係についての本を読んでおくといふと思う。そのような題材を取扱った映画もおすすめ。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/02

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 2018/08/01 ~ 2018/08/24
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

2 年の夏は就職活動などに左右されずに、活動できる期間だったから。また、1 年次に教養学部の単位を取り終えていたため、期末テストに時間を割く必要がなく、余裕を持って留学に臨めると考えたから。

■参加を決めるまでの経緯:

現地の学生と英語で交流できるプログラムを探していたので、候補としては香港、中国の3つがあったが、韓国のプログラムが最も日数が長く、互いの国を行き来するので、より深い交流ができると考えたから。参加は4月の末ごろに決めた。

プログラムについて

■概要:

授業は全て英語で行われ、時折グループディスカッションやプレゼンを行うこともあった。印象に残った授業は日韓関係に関する授業であり、韓国側から見た日本との関係について聞くことができ、非常に有意義だった。フィールドワークでは韓国の外務省や大使館に行った時に、中身の濃いお話を聞くことができた。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

取り組む時間がなかった。

■週末の過ごし方:

同じグループの学生と一緒に観光をした。

派遣先大学の環境について

■設備:

図書館は7階建てで非常にきれいで、大きかった。入館証をもらえたので、自由に出入りすることができた。食堂は複数あり、毎日メニューが変わるので、飽きることなく食事できた。wifi は授業を受ける教室以外ではあまり使用できなかった。

■サポート体制:

日本語、韓国語、英語を話せるソウル大 TA さんがプログラムに同行してくれ、学習面や生活面でもサポートしてくれた。TA さんは困ったことがあればなんでも相談に乗ってくれたので、非常に助かった。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

寮はキャンパス内にあり、授業を受ける教室にも徒歩10分ほどで行くことができる。2人1部屋であり、各部屋にシングルベットと勉強机が二つ、トイレ、シャワー、エアコン、クローゼットがついている。寮の近くに食堂やコンビニ、ジム、カラオケなどがあるので生活には全く困らない。また、バス停がすぐ近くにあるので繁華街にもすぐに行ける。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

今年は異常な猛暑らしく、かなり暑かった。帽子や扇子などを持って行くと良いかもしれない。大学周辺は山だが、バスに10分ほど乗ると、繁華街に行ける。交通機関はバスと地下鉄を利用した。運賃は東京に比べてかなり安い。Tmoney カードという IC カードにチャージして使った。食事はかなり量が多い。現地の人も残しているの、無理に全部食べる必要はない。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

日本で2万円をウォンに両替して持って行った。足りない分はクレジットカードで支払った。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

治安は日本と変わらないくらい良かった。市街地はかなり交通量が多いので、車に気をつけた。

■自由時間に利用した交通手段:

タクシー、列車、バス

■プログラム期間中に利用したネット環境:

キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:

本部国際交流課から送られてくる指示通りに準備を行った。ソウル大学校のプログラムで特徴的なのは Health Foam の提出だと思う。東京大学の保健センターで記入してもらえるが、7月頃は混んでいるので早めの予約が必要。

■ビザの手続き:

日本国籍を持っていればビザは必要なかった。

■医療関係の準備:

保健センターで健康診断を受けていないと、Health Form を作成してもらえないので春の健康診断は必ず受けた方が良い。ソウル大学からはおたふく、麻疹、風疹の3つの抗体を持っていることが要求された。韓国の食べ物は日本の料理よりも刺激が強いものが多いので、胃薬を持って行った方が良いと思った。

■保険関係の準備:

東京大学で指定された付帯海外留学保険に加入した。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:

前期教養学部では、アドミニ棟にあるグローバルセンターに行き、渡航届を提出した。

■語学関係の準備:

英検1級。出発前に英語のリスニングやスピーキングの学習に取り組んだ。

韓国語については簡単な挨拶やハングルの読みができると留学中も困らないと感じた。

費用・奨学金に関すること**■参加するために要した費用:**

航空費	50,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:

授業料や寮の費用、教科書代は全てプログラム料金に含まれていた。

■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	3,000 円
娯楽費	10,000 円

■その他、補足等:**■プログラム参加のための奨学金の受給有無:**

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等:

JASSO

■受給金額(月額):

70,000 円

■受給金額についての補足等:**■奨学金をどのように見つけたか:**

大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って**■プログラムに参加したことの意義、その他所感:**

日韓関係についてこれまで以上に深く考える契機となった。メディアを通してではなく、韓国で暮らす人々の率直な意見を聞くことで、自分は今まで日本メディアの視点からしか、日韓関係を見ていなかったということを痛感した。これからの学び方を考える上で非常に有意義なプログラムだった。

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

海外での仕事も視野に入れたいと思うようになった。

■進路・就職先(就職希望先):
公的機関、民間企業、外務省、農林水産省、商社、出版社
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
参加を迷われているようであれば、ぜひ参加することをお勧めします。このプログラムを通して、日本では体験できないことを数多く体験できると思います。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
地球の歩き方ソウル

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/30

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 2018/08/01 ~ 2018/08/10
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
一年生で時間があると思ったため
■参加を決めるまでの経緯:
とにかく留学がしたかったので、入学式の Go Global パンフレットを見て、このプログラムに参加した。イギリスを第一志望にしていたが、韓国は日本にとって重要な国であるので韓国に行き先が決まっても、迷いはなかった。

プログラムについて

■概要:
毎日ディスカッション形式の講義だったのが新鮮でした。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
スポーツ、文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
ラグビー部に所属していた。校内新聞制作
■週末の過ごし方:
読書、勉強、音楽

派遣先大学の環境について

■設備:
東京ラウンドのみ参加。
■サポート体制:
東京ラウンドのみ参加。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
東京ラウンドのみ参加です。

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
わかりません。東京ラウンドのみ参加です。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
わかりません。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
ありません。
■ 自由時間に利用した交通手段：
利用していない。
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
利用していない。

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
Health Form の提出 オリエンテーションがあった翌日からすぐに保健センターに行くことをお勧めします。抗体がなかった場合、シャレになりませんから。渡航届の提出 書いてある通りに。海外保険の申請 書いてある通りに。
■ ビザの手続き：
パスポートが切れそうな人は留学を決めた後すぐに書類を準備して新宿の旅券発行所に行きましょう。発行には一週間かかります。因みに発行に必要な書類を揃えるのも結構大変です(戸籍謄本など)。
■ 医療関係の準備：
留学には抗体が必要なことがほとんどです。必要とされる抗体は幼い頃に予防接種を受けたものが殆どなので、母子手帳で接種記録を医師に提示して Health Form に記入してもらいます。母子手帳がない人は、血液検査で抗体があるかどうか調べ、抗体がない場合は予防接種を受けて、ふたたび検査で抗体の有無を確認します。この時、例えば麻疹などは二回、四週間開けて接種となります。そのため、抗体がないことが発覚して予防注射を受ける、となった時に出発に間に合わない事態が発生しかねません。留学を考えている人は、母子手帳をまず探しましょう。見つからない人は、すぐに保健センターへ行きましょう。
■ 保険関係の準備：
書類に従って書いていけば簡単ですよ。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
一年生なのでそういうのはありませんでした。
■ 語学関係の準備：
特にないです。

費用・奨学金に関すること

■ 参加するために要した費用:	
航空費	0 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50000 円
教科書代・書籍代	0 円

海外留学保険料(東京大学指定のもの)	0 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
東京ラウンドのみ参加	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	0 円
交通費	0 円
娯楽費	0 円
■その他、補足等:	
東京ラウンドのみ参加	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給しなかった。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
■受給金額(月額):	
円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
これほどまでに英語での意思疎通をどっぷりと体験したことは無かった。ソウル大学からの学生と接する ここで、日本メディアが発する、所謂一般的な韓国人の考え方、というのは真実ではないのかもしれない、と 思うようになった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
今まで日本に骨を埋めるつもりだったが、海外と関わる仕事がしたいと考えるようになった。
■進路・就職先(就職希望先):
専門職(法曹・医師・会計士等)、公認会計士、弁護士、国連職員
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
待っていても何も始まりません。自分を成長させるには自分からの行動が必要です。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
東京大学が用意した準備資料で十分でした。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/30

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 2018/08/01 ~ 2018/08/24
- 東京大学での所属学部・研究科等: 薬学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 3

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
夏休みで、時間の取れる時期だったから。
■参加を決めるまでの経緯:
去年シェフィールドのサマープログラムに参加し、より英語力を高めたいと思い参加しました。

プログラムについて

■概要:
午前にはレクチャー、午後にフィールドワークというのが基本的なスタイルだった。ソウルラウンドで板門店に行ったことはとても印象に残っている。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
時間がなかったから。
■週末の過ごし方:
ソウル大の人と王宮に行った。

派遣先大学の環境について

■設備:
図書館は最近新しくなったのでとても綺麗で立派だった。Wifi は教室では使えるが、寮では使えないのでルーターをレンタルしている人がほとんどだった。
■サポート体制:
サポートは充実していた。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
キャンパス内の、学生寮。二人で一つの部屋を使う。シャワーとトイレと洗面台がある。冷蔵庫も付いていて、冷房も付いていたので特に不便なことはなかった。

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
日本と同じかそれ以上に暑かった。大学が山の中にあり、とても広く起伏が激しいため、移動はほぼバスを使う。タクシーを使うこともあった。(日本より安い。)英語や日本語が通じないこともあるため行き先がわからず苦労することもあった。食事は昼はソウル大の学食、夜はソウル大の人たちに連れて行ってもらった韓国料理がほとんどだった。ソウル大の人が現地の人しか行かないような店に連れて行ってくれたのが印象深かった。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
クレジットカードがほとんどどこでも使えた。しかし、割り勘するときなどは現金が必要。3 万円分両替したが、ほとんど使い切った。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
治安は比較的良いが、夜に一人で歩くのは避けた方が良いと思う。TA さんがいるので、何かあればいつでも相談できる状態が整っていた。
■ 自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、バス
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
国際交流課の指示に従って書類を準備しました。情報はこまめにチェックしました。
■ ビザの手続き：
普通に観光ビザをとりました。特に困ることはありませんでした。
■ 医療関係の準備：
ソウル大の寮に提出する書類を出すために東大の保健センターに行きました。健康診断を受けていないとトラベルクリニックを受診できないので気をつけてください。
■ 保険関係の準備：
学校の保険に加入しました。OSMAA にも一応加入しました。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
学部の国際交流課に書類を提出しました。
■ 語学関係の準備：
プログラム開始までに、リスニングをしていました。英会話の特別な対策はしませんでした。議論に役立つ英語を学んでおくよかったと思いました。

費用・奨学金に関すること

■ 参加するために要した費用:	
航空費	57,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円

教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	6,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
国際本部交流課	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
英語力を高めることを目標にしていたが、日本語を使う場面も多く、もう少し英語を使うようにしたかった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
国際的な考え方を持つことができるようになったと思いました。
■進路・就職先(就職希望先):
公的機関
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
サマープログラムの中ではハードルの低い方だと思うのでぜひ参加してみてください。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
maps.me、コネスト地図

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/02

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 2018/08/01 ~ 2018/08/24
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

どうしてもソウルの短期留学(サマープログラム)に参加したかったため、この時期に行くしかなかった。むしろこの時期は避けたかった。

■参加を決めるまでの経緯:

韓国の文化に小さい頃から興味があり、参加しようと思った。ただ東京ラウンドに参加できないため、不安もあり、条件付き採択とされ、矢口先生との相談の上、参加するか迷ったが、昨年参加した友達に後押しされ行くことに決めた。迷った理由としては、属する他サークルとの兼ね合いや、お盆に丸かぶりする点。特に今年は親族の初盆なので迷った。

プログラムについて

■概要:

国会訪問や外務省訪問など課外活動が多く、文化交流や文化理解などの観点でいうとても満足したものだった。英語の講義を平日毎日受けたがこれも非常に興味深いものだった。しかし提携先の大学生は1~2ヶ月の日本語講座を受けていて日本語を話せるようになっていたが、こちらは特に相手国語を学ぶ機会には公にはなく、非常に残念だった。作って欲しかった。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

渡航期間が短かった。

■週末の過ごし方:

伝統的な民族村というところに行ったり、日韓関係について描写されているカウンターズという映画を観に行った。一人で買い物も行った。

派遣先大学の環境について

■設備:

eduroam があると聞いていたがよくわからなかったなので、レンタルした Wi-Fi ルーターでしのいでいた。

■サポート体制:

特に問題ない。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

渡航先で初めて話す友達と2人でルームシェアだったが、そのおかげでより仲良くなることができた。大学の Wi-Fi が繋がらないのがとても困った。シャワーやトイレも普通で特筆すべき点はない。湯船はなくシャワー室でした。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

日中は日本と同じくらい暑かったが、湿気がなく、より快適に感じました、夜は日本と全くことなり、とても涼しかった(日本より4?6度低い?)。バスと電車(地下鉄)でも移動が基本だが、とても安い。日本と比べて半額以下で、また Tmoney というカード(日本でいう Suica や ICOCA)を作るとバス、電車で使え、バスから電車に乗り換える(逆もまた然り)と、乗り換え料金でとても安くなるため、Tmoney カードは作るべきである。ちなみにタクシーでも当カードは使える。またタクシーも日本よりかなり安く20分くらい乗っても 1200 円程度だったので、終電を逃したときは毎回タクシーに乗った。4人いるときはバスよりタクシーの方が安くなることもあった。食事は基本からい。しかし日本人の口に合うからさであるため、東南アジアのようなつらさはない。美味しいし、日本より安い。価格が日本レベル(定食で 800 円くらい)だとするとボリュームがあり、満足感が大きい。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

カード社会と聞いていたので12日間滞在するのに5千圓しか替えなかったらやはり足りなかった。だがカード社会というのは本当で、タクシーもどこの小さな店でもカードで支払い可能で、割り勘もカードでできる。現地大学の友達に首からカード入れをぶら下げて財布を持たない友達もいた。また現地人では TOSS という電子決済アプリが流通しており、友達間での銀行口座のお金のやりとりがスマホ上でできる。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

辛いものを食べ過ぎないようにした、また水道水も飲めないいらしかったので飲まなかった。

■自由時間に利用した交通手段:

タクシー、列車、バス

■プログラム期間中に利用したネット環境:

キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:

留学についての全般的な書類や、留学における個人に関する情報書類(航空券情報などを記載した)がある。後者は保険に入って、航空券を取った後にしか入力、提出できないため、航空券の購入などは早めにすませておくほうが良い。また大学が要求する健康診断書があるが、これは病院の都合もあるため本当に早めに予約、診断をすませておくこと。

■ビザの手続き:

韓国はビザ不要

■医療関係の準備:
上述の通り、健康診断書の作成に手間、時間がかかった。特に結核の診察?で、抗体検査をしてから、陽性だったらx線検査をしろ、という指定だったので、2週間かかった。病院が予約でいっぱいだったし、健康診断書の内容の通達が渡航の1ヶ月半前だったので、通達をもう少し早めにして欲しかったと思うが、早めの準備をしようとも思った。
■保険関係の準備:
大学指定の保険に入るので、特に迷うこともなく、スムーズにできたが、損保ジャパンなどの一般的な保険会社より手間が面倒なところもある。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
奨学金のための成績の提出、海外渡航届けの提出。早めにしましょう。僕は締め切り3時間前とかに行き、不備がありとても焦りました。
■語学関係の準備:
特に語学要件はなかったが、現地語を話せるだけで視野が広がるし、余裕もできる。その上現地学生との交流も深まるため、話せるほうが良い。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	32,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	4,920 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	22,000 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	10,000 円
交通費	3,000 円
娯楽費	45,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	

■奨学金をどのように見つけたか：
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
自分は韓国についてよく知っている方だ、まだ客観的に日韓関係を見ることができている、と自分では思っていたが、やはり現地に行かないと知れないことや感じられないことがたくさんあり、より日韓関係の理解が進んだとともに、現地に行かないとわからないことがたくさんあるという認識が得られた。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
もともと海外志向があったが、さらに強くなったとともに、英語の必要性、英語学習の必要性を感じられた。
■進路・就職先(就職希望先)：
公的機関、民間企業、商社、広告企業(専ら国内だが)
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
現地には、行かないと感じられないこと、知ることができないことがたくさん待ってます。実際に行って、感じて、考えて、持ち帰って、いい留学・渡航を人生で味わってみましょう！
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/02

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 2018/08/01 ~ 2018/08/24
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
大学に入学し、広い視野を持ちたいと思ったため。他科類の人や先輩とのつながりを持ちたかった。
■参加を決めるまでの経緯:
留学の説明会を聞いて、日程が合い、また他大学の学生と交流できるこのプログラムに応募しようと思った。プログラム期間が長く、夏休みの半分くらい潰れてしまうので参加するか迷った。

プログラムについて

■概要:
午前中は講義、午後はフィールドトリップ、その後は自由時間で自由に観光できます。予習、復習は義務ではありませんが、自分のためにすると良いと思います。自由時間に同じ班でたくさん観光したりご飯を食べに行ったりでき、東大生、ソウル大生交えてとても仲良くなりました。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
短期プログラムのため時間がなかった。
■週末の過ごし方:
同じグループのメンバーで観光へ行きました。

派遣先大学の環境について

■設備:
設備は基本的に東大より豊富です。図書館は本貸し出しだけでなく、グループ学習室や休憩室、ラウンジもありとても綺麗でした。食堂は1箇所につきメニューは2つで、それが何箇所もあります。Wi-Fiはソウル大生は使えますが、私たちは使えなかったです。
■サポート体制:
英語を教えてくれる人は当然いないので、ある程度の英語力がないと厳しいです。講義以外では、メンバー同士で英語で話し、互いの文化や生活を学んで行く感じでした。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
ソウル大の学生寮で、2人で1室、部屋にトイレとシャワー、冷蔵庫はあります。Wi-Fiは通じていません。ティッシュ、トイレトーパー、スリッパ、シャンプー、リンス、石鹸など、消耗品は何も無いので持っていきましょう。忘れた場合は、いくらでも近くのコンビニで買うことはできます。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
気候は日本とほぼ同じ、大学は山の中にあるので基本バスまたはタクシー移動です。最寄りの鉄道の駅まで歩くと30分ほどかかります。都市部に出れば地下鉄、バスが豊富にあるので交通機関で特に困ることはありません。タクシーも初乗りが300円ほどで安いので便利です。食事は辛いものばかりです。韓国人に辛く無いと言われても、赤いものは絶対に辛いので辛さに強い自信のある人以外はやめておきましょう。学食はあまり美味しくなかったです。街には飲食店が大量にあるので食べるものがないという状況にはならず、便利です。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
基本PASMOのようなT-moneyカードとクレジットカードで事は足ります。現金は基本使いません。ただ屋台に行く際と、グループのメンバーで割り勘する際は現金があった方が便利です。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
治安は基本的に良いです。ただ夜は酔っ払いがたくさんいるので絡まれないようにしましょう。そのほかは特に危険なことはありませんでした。普段食べ慣れていない辛いものをたくさん食べるので胃薬を持って行ったほうが良いです。
■自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパスWifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
保険に関する手続き書類や、渡航情報届など。出す書類は多く、期限が提出物ごとに決まっているので、きちんと自分で管理するようにした方が良いです。
■ビザの手続き：
ビザは必要ありませんでした。
■医療関係の準備：
予防接種を駒場保険センターで受けました。義務の予防接種以外でも、勧められたものはやりました。高額でした。大学の健康診断を受ける必要があります。外部の病院はさらに高額になるそうなので、参加が確定したら早めに駒場保険センターの予約を取ることをお勧めします。
■保険関係の準備：
東京大学から指定された保険に加入しました。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
夏休み期間中のプログラムで、単位取得も無いので特に特別な手続きは必要ありませんでした。
■語学関係の準備：

所持していた英語資格は英検準一級のみでした。英語での日常会話は可能なレベルでした。講義での専門的な話題は聞き取れますが、ディスカッションなどで自分の口から話すのは難しかったです。韓国語は全くわからなかったのですが、少しは勉強しておくとしるプログラムがより充実したものになると思います。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:

航空費	40,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:

予防接種代 25000 円

■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	20,000 円
娯楽費	30,000 円

■その他、補足等:

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等:

JASSO

■受給金額(月額):

70,000 円

■受給金額についての補足等:

■奨学金をどのように見つけたか:

大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:

色々な人に出会えたこと、友達になれたこと、海外の友人ができたこと、とても満足している。理系なので、もう少し理系の講義を受けたり、理系企業を訪問したかった。

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

プログラムに参加している先輩の就活のお話を聞いて、自分も将来を見据えて日々を過ごそうと思った。

研究職につきたいと思っていたが、民間企業就職も悪くないと思うようになった。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
短期間ではあるものの、成長できるチャンスなので少しでも興味を待ったら応募すべきだと思います。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
外務省 HP、グローバル駒場

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/30

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 2018/08/01 ~ 2018/08/24
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
ウインタープログラムを逃してしまい早く留学したかった。
■参加を決めるまでの経緯:
隣国の学生とディベートできるところが決め手だった。

プログラムについて

■概要:
板門店が印象に残っています。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
取り組んでいない。
■週末の過ごし方:
片方は韓国の学生と観光した。

派遣先大学の環境について

■設備:
宿に Wi-Fi がないのが不便。
■サポート体制:
TA さんがいたので問題なかったです。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
ツインルーム。指定だった。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
地図を読めればなんとかなる。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:
空港までのバスが現金のみだったので現金を最後まで余裕を持って取っておくとよい。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
野菜を取りましょう。
■自由時間に利用した交通手段:
タクシー、列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
パスポート情報や健康診断の結果など。健康診断の結果は安いので東大の保健所でした方がいいが、4月の健康診断を受けていないと書いてもらえない。
■ビザの手続き:
なし
■医療関係の準備:
前述の通りです。
■保険関係の準備:
ないです。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
奨学金をもらえる成績を保ちましょう。
■語学関係の準備:
現地の言葉を勉強すれば更に楽しい。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	40,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	3,000 円
交通費	500 円
娯楽費	4,000 円

■その他、補足等：
全部円です。

■プログラム参加のための奨学金の受給有無：
受給しなかった。
■奨学金の支給機関・団体名等：
■受給金額(月額)：
円
■受給金額についての補足等：
■奨学金をどのように見つけたか：

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
韓国の学生と仲良くなれた。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
海外で働く大変さに気づいた。
■進路・就職先(就職希望先)：
民間企業、ゼネコン、設計事務所
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
予め相手国の勉強をしましょう。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
なし。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/12/2018

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 8/1/2018 ~ 8/24/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

プログラム期間が夏季休暇期間内だったので、通常の授業を欠席する必要がなかったため。

■参加を決めるまでの経緯:

大学一年生を受動的にダラダラと過ごしてしまったことを後悔しており、二年生では意欲的に様々なことにチャレンジしたいと考えていた。そんな折、サマープログラムの存在を知り、応募した。英語力に全く自信がなく、とても不安だったが、参加して後悔はしないだろうと思い応募した。

プログラムについて

■概要:

午前は教室で授業・ディスカッション、午後はフィールドワークという流れで進んでいった。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

スポーツ

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

ソウル大学の生徒とバスケットボールをした。

■週末の過ごし方:

週末は一度しかなかったが、すべて観光に費やした。

派遣先大学の環境について

■設備:

図書館は充実していたが使用する機会がなかった。スポーツ施設は充実しており、ソウル大学の学生と早朝にバスケットボールをした。食堂はいくつもあり、提供されるものも美味しかった。教室・図書館・食堂では Wi-Fi が使えたが、寮では繋がりにくかったので、レンタルした Wi-Fi を使っていた。

■サポート体制:

東大の先生方はもちろん、ソウル大学の TA の方々も日本語が堪能だったので、英語が下手な私でも生活面で困ることは一切なかった。また、ソウル大学の学生は理解力が高く、私の稚拙な英語でも私の意思を理解してくれたので、コミュニケーションにおいて困ることはなかった。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮	
■宿泊先の様子、どのように見つけたか：	
プログラムで用意されたソウル大学の寮に宿泊した。二人部屋で、トイレ・シャワー・冷蔵庫があった。アメニティ類は一切ないので現地のスーパーで購入した。	
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：	
とても暑い。30℃を下回る日はなかった。ソウル大学構内はとても広く、寮から最寄り駅まではバスで移動した。バス・地下鉄ともにとても安い。ソウル大学の学生と移動する際はタクシーも頻繁に利用した。食事は基本的に辛い。そして安い。	
■お金の管理方法、現地の通貨事情：	
現金のみ利用した。	
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：	
治安は日本と同程度かそれ以上に良い。困ることはなかった。	
■自由時間に利用した交通手段：	
タクシー、列車、バス	
■プログラム期間中に利用したネット環境：	
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター	

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：	
ソウル大学の寮を利用にあたって必要な Health Form を準備するのに時間がかかった。特に私の場合、抗体が基準値に満たなかったため再度予防接種を受ける必要があり、提出までに 2 週間以上がかかった。	
■ビザの手続き：	
必要なかった。	
■医療関係の準備：	
かぜ薬などを持参したが、使わなかった。	
■保険関係の準備：	
東京大学の指定した保険に加入した。	
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：	
前期教養学部へ海外留学届を提出した。	
■語学関係の準備：	
東大の中で平均的な英語力だと思う。英語に対してやや苦手意識があり、東大の授業以外では英語の学習をしてこなかった。プログラム参加が決まって以降、英語の動画を見たりして耳を慣らそうとした。	

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：	
航空費	50,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円

教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	15,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給しなかった。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
■受給金額(月額):	
円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
まず第一に世界が広がった。自分の生きてきた世界の狭さを知り、また自分の弱さを痛感した。第二に自身がついた。下手な英語でも伝えようという意味があればある程度伝わるということを知った。臆病な自分を多少は克服することができた。第三に友人ができた。一生付き合っていきたいと思える東大・ソウル大学の友人ができた。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
海外で仕事をすることにに対する不安・拒絶感が減った。
■進路・就職先(就職希望先):
民間企業。まだ決めてはいないが、ゼネコン等に就職したいと考えている。
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
参加して後悔することは決していない。迷っているなら参加すべきだと思う。特にその迷いが自身の語学力に関する不安によるものならば、ぜひ参加してほしい。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
昨年度プログラムに参加された先輩方の体験談。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/9/2018

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 8/1/2018 ~ 8/24/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

長い夏休みを有効利用したかったため。

■参加を決めるまでの経緯:

5 月ごろに別の夏休みのプログラムの選考に落ちてどうしようか迷っていたところこのプログラムに出会いました。

プログラムについて

■概要:

午前中は教授の講義を聞き、午後は授業内容に関連するフィールドワークを行いました。予習、復習は必要ありません。歴史問題や領土問題について韓国の学生とディスカッションを行ったことがとても心に残っています。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

スポーツ、取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

学校主導のプログラムであったため。

■週末の過ごし方:

板橋区の花火大会に行きました。

派遣先大学の環境について

■設備:

講義する教室には Wifi が飛んでいますが、寮には届かないので、Wifi を借りるか、SIM カードを買うことをお勧めします。図書館はとても広く設備も充実しているので、グループの人に連れて行ってもらうことをお勧めします。

■サポート体制:

何かあれば TA さんが対処してくださる体制が整っていました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
ソウル大の寮に宿泊します。2 人1部屋です。タオル、シャンプー、石鹸、ボディソープ、トイレtpーパー、ドライヤーなどは自分で持って行くか現地で買う必要があります。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
山の中にある上に、どこのバス停からどのバスに乗ればいいのか非常にわかりにくいので、初日は時間に余裕を持って行くことをお勧めします。朝食は食堂で 300 円ぐらいで食べることもできますし、コンビニで買うこともできます。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
地下鉄は日本より格段に安いです。ソウルに着くとすぐに T-money というパスモのようなカードを作ると良いと思います。また、韓国はクレジットカード社会である上に飲み会などで思ったよりお金を使ったので、クレジットカードは持って行くことをお勧めします。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
辛いものを食べすぎたせいか、数日間お腹を壊しました。胃腸薬は持っていくべきです。
■自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車
■プログラム期間中に利用したネット環境：
SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
プログラムへの意気込みなどを書く書類を提出しました。奨学金は、指定の成績に届いていませんでしたが、エッセイを書けば通ったので、諦めずに申し込んでみることをお勧めします。
■ビザの手続き：
ビザは必要ありませんでした。
■医療関係の準備：
保健センターに行きましたが、免疫の検査、予防注射などを含めると、2 万円近くかかりました。受けといた方がいい、と言われたものを全て受けたためだと思いますが、断ればそんなにかからないであろうと思われます。
■保険関係の準備：
東大指定のものに入りました、OSSMA は入らなくてもいいと思い、入りませんでした。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
指定されたことをするだけで構いません。
■語学関係の準備：
TOEFL103 点、IELTS7.0 のスコアを持っていたので、あまり英語に不安はなかったです。ハングル、韓国語をもっと勉強しておけばよかったと後悔しています。必要はありませんが、わかった方が楽しいです。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：

航空費	53,700 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	4,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	3,000 円
娯楽費	20,000 円
■その他、補足等:	
4 万円持って行きましたが、足りなくなって他のプログラム参加者からお金をお借りしました。	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意味、その他所感:
20 日間一緒にいるため、これからもずっと連絡を取り合うであろう友達に出会うことができました。また、講義やフィールドワークを通して日本に対して客観的に見るできるようになりました。このプログラムに参加して本当に良かったと思っています。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
海外で働くのも面白いかなと思い始めています。
■進路・就職先(就職希望先):
民間企業、環境分野
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
是非参加してみることをお勧めします。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
前年の合格体験記、地球の歩き方

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 10/28/2018

- 参加プログラム: ソウル大学校-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-Seoul.html>
- 派遣先大学: ソウル大学校
- プログラム期間: 8/1/2018 ~ 8/24/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 法学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 4

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
夏季休暇中に語学力を向上させたいと考えたため
■参加を決めるまでの経緯:
4月には決めた。

プログラムについて

■概要:
外務省訪問が印象的であった。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
班での観光
■週末の過ごし方:
観光

派遣先大学の環境について

■設備:
寮の wifi のつながりが悪い。
■サポート体制:
とても手厚い。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
大学の案内

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
ソウル大キャンパス内移動が難解であった。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:
クレジットカードがあるとよい
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
健康管理に気を付けた。
■自由時間に利用した交通手段:
タクシー、列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
健康診断情報、入寮書類等
■ビザの手続き:
なし
■医療関係の準備:
健康診断を受信した。
■保険関係の準備:
大学の指定の留学保険に加入した。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
なし
■語学関係の準備:
なし

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	40,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	50,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	10,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	30,000 円
■その他、補足等:	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等:
JASSO
■受給金額(月額):
70,000 円
■受給金額についての補足等:
■奨学金をどのように見つけたか:
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
語学力が向上した。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
海外留学したいと考えた。
■進路・就職先(就職希望先):
専門職(法曹・医師・会計士等)、弁護士
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
積極的に参加することを勧めたい。
■準備段階やプログラム参加中に役に立ったウェブサイト、出版物:
なし